

その時私は 震災の記憶（インタビュー）

なにごとにもポジティブに考えるようになりました

■地震の時は、どこで何をされていましたか

仕事中でした。携帯の地震速報が鳴り、徐々に揺れが大きくなり急いで外に出ました。揺れは立ってられないほどになって思わずその場にしゃがみこみました。跨線橋も崩れひどい状況でしたが、とにかく家に帰らなければという一心で車を運転しました。

■ご自宅の被害はどうでしたか

家の中は、幸い被害が少なく瓦が何枚か落ちた程度でした。電気は翌日復旧しました。水も使えたので助かりましたが、これからどうなるか不安だったので鍋やペットボトルに水をくんでおきました。おかげさまで家族はみんな無事でした。

■困ったことや不安だったことは何ですか

地震後は、携帯電話も災害ダイヤルもつながらず家族の安否確認ができなくて苦労しました。大きな余震もしばらく続いて怖かったですね。当時小学生の娘は一月月くらいは洋服をきてリュックを背負って寝ていたのがかわいそうでした。

一番の不安は原発事故の影響です。特に和地区は、線量が高く、臭いもなく目にも見えないので不安でした。子どもたちその孫たちへの影響を考えると心配です。でも不安がっても元には戻りません。こうなってしまった以上は、健康状態のデータなどをきちんと統計として、良くなるために活かしてほしいと思っています。もしかしたら、放射線を消す新薬や方法ができるかもしれない。健康調査票なども面倒がらずに提出することも私たちの義務だと感じます。

■地震を経験して変わったことは

一層ポジティブになりましたね。済んだことよりこれから考えるようになりました。やらなくてはいけないことは、できるだけその日のうちにするようにもなりました。

また子どもたちとのコミュニケーションも、以前より増してとるようになりました。「後悔したくない。これ以上悪くならない。なにをやっても一日は一日。」と考え、これからの人生を、意識して生きたいと思います。



三瓶 弘子さん（和）



遠藤 友剛さん（青田）

二度とあんなに大きな地震は起きてほしくない

■地震の時は、どこで何をされていましたか

私は農協に勤めているのですが、仕事で同級生宅を訪問していました。聞き慣れない携帯音が鳴り、続いて地震が起きました。揺れが大きくなり同級生と一緒に外に出た直後、急に雪が吹雪いてきて、道路では車が立ち往生し、子どもの悲鳴などが聞こえたり、この世の終わりと思えました。すぐに、自宅に戻り、飼っている犬が心配だったので様子を見に行きました。犬もとてもおびえていましたが、無事だったので本当に良かったです。私にとって大事な家族なので…。

■地震後の生活はどうでしたか

家の中は食器などが落ちていましたが、おかげさまで瓦屋根も1枚も落ちず自宅は大きな被害もありませんでした。電気は当日夜には復旧し、水道も使えたので助かりました。翌日からは、仕事で地震被害の保険にかかる損害状況を確認するためとても忙しくなりました。青田地区は道をはさんで被害がひどいところと少ないところがあって、地盤の強弱の影響があると今初めてわかりました。調査が落ち着くまで半年以上かかりました。

■困ったことや不安だったことは何ですか

原発事故が起きてからも外で仕事をしていたので、大丈夫かなと不安になりました。また、職業柄、農産物関係がとても心配でした。風評被害は深刻で当時に比べれば良くなっていると思いますが、まだまだだと思います。

■地震を経験して思ったことは

非常時の生活用品の備蓄は大事だと思いました。それから、保険は大事だと思いました（笑）。家族にも知人もけがもなく不幸中の幸いだったと思います。二度とあんな地震は起きてほしくないと思います。

■市や国に望むことは

やはり、原発問題ですね。こうなった以上はどうしようもないですが、抑えられるものはきちんと対策してほしいと思います。

あたりまえの生活が幸せだと実感しました



室野井 英子さん（高木）

■地震の時は、どこで何をされていましたか

3月11日は娘の中学校の卒業式でした。卒業式を終え自宅にもどり、地震にありました。主人も私も仕事を休み、家族一緒にいたのでその点では良かったです。自宅は壁がくずれたり、食器やテレビも落ちたりしました。地震が長かったのでみんなで慌てて外に出ました。

■困ったことや不安だったことは何ですか

余震が続き不安でした。1カ月くらいは子どもたちと茶の間で寝て、1〜2カ月はパジャマではなくすぐ避難できるように服を着て寝ていました。灯油やガソリンも不足していて、今あるガスや灯油がなくなったらどうしようと心配でした。暖をとる石油ストーブでお湯をわかし、物置にあった七輪でご飯を炊いたり、煮物をつくりました。また、娘の高校進学準備もままならず、入学式もどうなるのかと心配しました。

■原発事故対策について

本宮市は、ガラスバッジ測定やホールボディカウンター検査など対応も早く、検査態勢なども他の市と比べると住民の立場に立って助かりました。将来、福島県出身ということで差別を受けないか、子どもたちのこれからの風評被害などが心配です。

■市や国に望むことは

震災当時に18歳未満だった子どもたちの、ホールボディカウンターや甲状腺検査などの健康調査をずっと続けてほしいと思います。

汚染水をはじめ一日も早い原発事故の収束にむけ東電はもとより国を上げて取り組んでほしいです。

■地震を経験して感じたことは

あたりまえのことが幸せだと思えました。家族が元気で一緒に居られることのありがたさを感じました。



阿部 修司さん（関下）

住宅除染に期待します

■地震が発生したときの状況を教えてください

私は、自宅からほど近い勤めている会社にいました。みんな危ないので駐車場に避難して座り込んで待っていました。隣の会社の大きなコンクリートブロックが転がってきたのはびっくりしました。会社の倉庫内は荷崩れなど酷い状況でした。

■自宅には戻られましたか

自宅には私の両親がいたので、心配ですぐ戻りました。自宅へ帰る途中、あちこち瓦が落ちていてすごかったですね。自宅は大きな被害はなかったのですが、自宅前の道路をはさんで建っていた土蔵が倒壊しかかっていて、余

震でいつ倒れるか心配しました。

■困ったことはありましたか

地震の時、連絡がとれなかったことです。テレビは見ることができましたが、とにかく部屋の中がめちゃめちゃになっていました。ガソリンなど、私は会社が自宅から近いのであまり困らなかったです。スーパーなど食べ物には本当に何も売ってなくて困りました。妻が早く行って並んでなんとか買っていったという状況です。

■仕事への影響はありましたか

会社では次の日から片付けをしていました。そんな時、避難区域から会社に来ている人に「なんで避難しないのか」と言われたことがありました。当初は「不必要な外出は控えて」ということだったと思います。原発事故で、ここまで影響があるとは思っていませんでした。また、私はお米をつくっていますが、当時は田植えの準備を進めていましたが、土壌検査が終わるまで田植えができませんでした。今でも全量全袋検査で安全だとわかっていますが、それでも売れないという風評被害があります。

■住宅除染について

除染の効果はあると思います。会社でも平成25年8月に除染をやりましたが、毎時0.6マイクロシーベルトだった数値が半分まで下がりました。住宅除染については早期に進めていただきたいと思っています。

■震災後大きく変わったことは

福島は安全だという神話がありました。そうでもないことがわかりました。

■地震への備えは

災害時の家族との連絡方法については、なんとかしなければならぬと思っています。

人を思いやる気持ちが生まれました

■地震は、中学校の卒業式の日でしたね

そうです。私は当時中学校1年生で、午後からは自宅にいました。地震が起きて、すぐ祖父と祖母と居間に集まり地震が収まるのを待ちました。父と母は仕事で不在でしたが、無事に帰ってきた時はほっとしました。

■地震の時困ったことはありましたか

停電があって、電気がつかなかったことです。そして原発事故があって屋外での活動が制限されたことです。また中学校が壊れたことが一番困りました。すぐに荒井地区公民館で授業を再開していただきましたが、とても暑くて、仕切りがあっても、隣のクラスの音が筒抜けで、集中することが難しかったです。その後本宮二中の敷地内に建てられた仮設校舎は快適でしたが、それでも廊下に出ると暑かったですね。

■今回の地震で何か自分に変わったことは

自分の中で人を思いやる気持ちが生まれました。震災前は、人を思いやって行動することができませんでした。それができるようになったと思います。

■原発事故の影響は今でもありますか

放射能など今は特に気にすることはありません。食べ物も特に気になりません。本宮の米はおいしいですし、焼き肉が一番好きですが、野菜も普通に食べています。

■新しい校舎を見て感想は

とてもうらやましいと思います。しかし僕たちが本宮二中で過ごした時間は、とても貴重なもので、震災を乗り越えて勉強や部活に取り組みました。今では、友達と震災の話をすることはありませんが、みんな今でも勉強と部活に一生懸命頑張っています。友達は自分の心の支えになりました。

■大人になって子どもたちに伝えたいことは

とにかくすごい揺れで道路も壊れて大変だったということを伝えたいですね。



根本 悠平さん (仁井田)

自分たちでできることは自分たちで

■地震の時は、どこで何をされていましたが

私と子ども3人と居間にいました。上の2人の子どもは、コタツにもぐらせて、一番下の子は寝ていたのでおおい被りました。そしてテレビが大きく揺れたので押さえたのですが、なかなか揺れが収まらず、おばあちゃんと急いで外にでました。幸い、自宅は瓦の一部が落ちただけで、大きな被害はありませんでした。主人には揺れている途中で電話をかけたのですが、なかなか連絡が取れず、夕方まで連絡がつかせませんでした。主人は帰って来て、休む間もなく消防団でかきました。

■地震で困ったことはなんでしたか

ガソリンを入れられなかったことと、店も開いているところが少なく、食料品も売っていないで困りました。松沢地区では電気は止まらなかったのですが、テレビで津波などの映像を見ていました。私たちは自然の前では無力なのだ痛感しました。あの時は、みんな大変な時期だったので、自分たちでできることは自分たちで頑張りました。

■原発事故が発生しましたが、どうされましたか

私と子どもたちだけで2週間、東京の親戚にお世話になりました。避難していても本宮市の状況がわからなかったのと、長男の小学校入学の準備もあり、本宮市に帰ってきました。今でも避難されている人はいますし、避難した方が子どもたちのためには良いと思いますが、家族が離ればなれになるのもつらいので葛藤があると思います。

■食事で気をつけていることはありますか

子どもも小さかったので、最初は福島県産のものを避けていましたが、検査して安全だとわかってきたので、今では福島県産のものを食べるようにしています。

■放射能について今思うことは何ですか

今年から小学校にも歩いていっています。この辺は線量が低いですが、放射線は目に見えないものなので、所々高い所もあり心配です。ホールボディカウンターの内部被ばく検査も受けましたが、検査は継続してほしいです。



安澤 安日子さん (松沢)

地産地消で風評被害払拭を

■ご自宅の被害はありましたか

自宅の壁にひび割れができ、食器棚やテレビが倒れました。2階の寝室もめちゃくちゃになりました。

■ご家族とは連絡がとれましたか

妻は、自宅近くの会社に勤めていたので、すぐ帰宅して様子を確認できました。

■地震の時一番困ったことは

一日半ぐらい停電だったことですね。テレビが見られなくて、情報が取れなかった。親戚も心配して電話をくれたがつながらなかったということでした。



国分 忠幸さん (白岩)

特に出かける用事もなかったのですが、燃料は軽油があったので困らなかったです。ただ勤務先では燃料が無くて仕事にならなかったですね。

■地震以降、仕事で変わったことは

地震よりも原発事故による風評被害のほうが深刻でした。私たちの年代では、放射能をあまり気にしても仕方がないと思っていますが、子どもたちがかわいそうですね。食べ物も、1年食べ続けていてどうかというところの話で、あまり気にしてもどうかと思います。マスコミが騒ぎすぎではないかなと思います。小さなお子さんがいる年代では気になると思いますが、検査をして検出されないものでも、風評被害で売れるものも売れなかったり、検査で時間がかかったりするのが大変でした。

■住宅除染についてはどうですか

住宅除染を進めるために仮置場は必要で、これに対して賛成する人・反対する人が必ずいます。そのためコミュニティが壊れる気がします。仲のよかった人と仲が悪くなった、自分だけの事を考えている人もいます。除染が先行すれば、自宅敷地内が仮置き場となり、経費もかかります。

■これからの人に伝えたいことは何ですか

まずは、風評被害をなんとかしたい。福島の人とは結婚しないという話も聞いたこともあります。みんなががんばろうということでも、検査をして大丈夫とわかっていても、他から米を買っている人もいます。

■市・県・国に望むことは何ですか

とにかく風評被害対策を望みます。地産地消で風評被害をなくしてほしいと思います。

将来は福島のために働きたい

■地震の時は、どこで何をされていましたが

高校1年生の時、バドミントンの部活中でした。とにかくびっくりしました。携帯の地震速報が鳴り出して地鳴りと共に揺れはじめ、みんなパニックになって体育館シューズのまま外に飛び出しました。地震が収まるまで校庭に避難をして、そのまま下校することになりましたが、電車が動いてなくて「どうしよう」と思っているところに兄が車で迎えに来てくれました。とても助かりました。友だちの中にはその日のうちには家に帰れず、学校に泊まった人もいました。



菅野 伶奈さん (長屋)

■ご自宅の被害はどうでしたか

家の中は食器棚から食器が落ちて散乱していました。壁にもひびが入りました。買ったばかりのテレビも壊れてしまい家族みんなショックを受けました。家族は幸い全員無事でした。電気は1日目は停電していましたが、次の日に復旧しました。

■困ったことや不安だったことは何ですか

学校に行けないのが困りました。当初、こんなにひどいと思っていませんでした。次の日も、普通に学校に行けると思っていました。これからどうなるんだろうと不安になり、終業式もなく1年生が終わってしまったのも残念でした。また、原発事故後、一時的に会津の親せき宅に避難しました。ガソリンがなくて会津まで行くのに家中の車からガソリンを集めて行きました。会津でもガソリンは不足していました。

■地震を経験して思ったことは

携帯もつながらない、学校にも行けないという経験をして、普段の生活が当たり前ではないということを実感しました。

■将来はどんな仕事につきたいですか

大学で学んで、将来は栄養士として働きたいと思っています。原発事故を経験し、風評被害や県産作物から高い線量が検出されるのを目の当たりにして、食を通して人々を助けたいと思うようになりました。できれば、福島県に残り福島役に立ちたいと思っています。

友人やネットに助けられました

■地震のときは何をしていましたか

福島市内の学校に通っていました。その日はちょうど卒業式の練習をしているところでした。

その後、しばらく学校に残って、その日は友人の車に乗せてもらって家まで帰りました。

結局卒業式は中止で、後から卒業証書だけが送られてきました。卒業したという実感がないまま卒業になってしまった気分です。

■帰り道の道路は混んでいましたか

国道4号をまっすぐ帰ってきたのですが、渋滞がひどく帰るのに3時間くらいかかりました。帰って来たときは深夜になっていました。

■帰ったときの自宅の状況は

家族は無事でしたが、ものが倒れぐちゃぐちゃになっていました。壁にはひびが入っていたり、自分の部屋のドアは開かなくなっていました。

■地震後の生活に変化は

3月に学校を卒業し、4月に就職しました。そのときには、燃料の問題も解決していたので、仕事上で困ることはとくにありませんでした。

■地震当時助けられたようなエピソードは

何をするにも車が必要なので、一時期ガソリンがないときはとても困りました。そんなときに、ネットや友人から、どこのガソリンスタンドが空いているとかのガソリン情報を教えてもらいました。実際に給油することもできてとても助かりました。



佐藤 真奈美 さん (荒井)

普通の生活をするのが解決策

■地震の時は、どこでお仕事を

岩根小学校でパソコンの修理をしていました。その時は職員室にいたのですが、パソコン、テレビは落ちそうになり、机は揺れて動いてしまい、全員で押さえていました。その後揺れが収まり、ひとまず職場に戻るのに外に出たのですが、道路には瓦が散乱し、歩道のマンホールは首を覗かせていました。

■自宅の様子はどうでしたか

庭半分がひびが入ってずれ落ちていました。30年前に盛り土をしたのでそこから割れたのだと思います。家の中は、戸が開かなくなっていたりしましたが、全員無事でした。地震直後でも、電気、ガス、水道はすべて使えていたので、不自由はありませんでした。

今は住んでいない稲沢の実家に行ってみると、高台にある家に通じる道路が途中からすべり落ちてしまい、車で登れなくなっていました。

■避難はされましたか

自分は、避難する必要もなかったのですが、仕事をしていましたが、当時、電話も通じずガソリンもなかったので移動に困りました。軽油はなんとかあったので、自分のディーゼル車で移動していました。娘は妊娠してからは白石に一時避難しました。

■自宅の周りの放射能は

家の周りを線量計で測ってみると、高いところ低いところばらばらでした。原発事故があったときに、家の窓を開けて風通しをよくしていたため、家の中でも0.6から0.7マイクロシーベルトはありましたが、ホールボディーカウンターを受けても特別問題はありませんでした。

■放射能問題の解決の糸口は

自分たちが作っているものを食べて、ホールボディーカウンターを受けても問題はありませんでした。

私たちに、帰る家もあるので、無理して避難する必要はないので、いままでどおり普通の生活をするのが解決策ではないでしょうか。

ただし、避難を余儀なくされている人たちは別。生活できる場を市町村長さんたちが考えてくれれば、と思います。原発事故を引きずるのではなくて、これからどうするかを考えていけばいいと思います。



渡辺 栄二 さん (稲沢)

正しい知識を持つこと

■地震発生当時の状況を教えてください

私は、その時間、こたつで横になっていました。1回目の揺れにはそれほど驚きませんでした。2回目の揺れの際は、ただごとではないと驚きました。

■まず何をされましたか

裏の家で水道が吹き出しているという報告を受けたので、外に向かいました。するとその家は傾き、窓も外れていました。

自宅に戻り水道をひねると水が出ませんでした。

私は消防官として働いていたので、すぐさま団地の見回りをし、地図に被害状況を書き込んでいきました。

■水もない状況でどうされましたか

近くの浄水場に行き、給水車の手配を依頼しました。その後、給水車が到着すると、副会長と2人で町内会の皆さんに給水車が来たことを知らせにまわりました。

■除染についてはどうですか

みずきが丘は、岩根小学校に通う子どもたちが多いため、団地をブロック単位で除染しました。

町内会では本宮市の補助事業を受けて高圧洗浄機を購入し、子どもたちが通る道路や側溝を町内会住民で除染を行いました。除染をしたことで線量を低減させることができました。

■放射能問題の解決のためには

セシウムなど放射能は確かに恐ろしいものですが、正しい知識を持つことが大切なのではないかと思います。たとえば、自然界にも放射性物質は存在し、畑作業や海外旅行で飛行機に乗るだけでも放射線を浴びています。数字だけを見るのではなく、そうした知識を持つと放射能に対する考え方が変わってくるように思います。



三瓶 弥内 さん (糠沢)

避難している人が戻ってくるような環境を作っていくことが大切

■地震の時は、どこで何をされていましたか

友人の手伝いで暗きょ排水の工事をしていたのですが、地震の時は揺れが大きくて立ってられないほどでした。

すぐに車に戻り、ラジオを聞いて一大事だとなつて、家に戻りました。帰る途中のコンビニには、大勢の人が並んでいたのが印象的でした。

うちは農家で、幸い食べるものはあったので、ストックしていた野菜などを食べて過ごしました。夜は、電気が止まっていたため、仕事で使う発電機を回して、電気をつけ過ごしました。

■仕事を再開したのはいつ頃ですか

地震から3日後には、知り合いの工務店さんから瓦や塀が倒れているのを撤去してほしいと依頼があり、仕事を再開しました。

道路に倒れた大谷石やブロック塀をダンプに積み、何回となく清掃センターを往復した時もありました。そのほかに塀を直したりといった仕事もしていました。

■震災後で生活が変わったことは

自分の所で収穫した野菜が食べられなくなったことです。孫はまだ小さいので、最近までは別に買っていました。

震災後、全壊になった住宅の瓦撤去などで郡山の仕事が増えました。震災で大変な思いをした反面、仕事が出てきたという面もあります。

■復興を進めるには何が大切になってくると思いますか

元の生活に近いような安全性、避難している人が戻ってくるような環境を作っていくことが大切だと思います。昨年までは精神的な負担が大きかったけれども、少しずつ良くなってきたと思います。

地区の行事も延期・中止になっていたものが復活してくてうれしく思います。

FMモットコムで震災情報を提供

■地震の時はどこで何をされていましたか

建築業をしておりますので、国道4号の西側に事務所と作業場があって、そこで仕事をしていました。事務所は地盤が沈下して傾いてしまい、その後解体しました。今は自宅を事務所として仕事をしています。

■地震の時にまず何をしましたか。

すぐ表に出て周りの様子を見ました。雪も降ってきましたが、事務所から見える我が家のお墓が遠目にもみても倒れているのがわかりました。私は、FMモットコムの役員として放送もしていましたので、すぐスタジオに戻って、知っている限りの情報をお知らせしました。地震から3日間くらいは、スタッフが交代で24時間体制で放送していました。

■ご家族とは連絡はとれましたか。

幸いにも自宅は被害がほとんどなかったので、家族も無事でした。東京にいる子どもたちともすぐに連絡がとれ安心しました。

■地震の時に困ったことは何かありますか。

FMモットコムでは市内のガソリンスタンドの渋滞情報なども放送しました。FMモットコムは停電で、非常用発電機で放送していましたが、燃料確保がギリギリでした。ついには新潟まで行って、なんとか燃料を確保することができました。

■地震によって変わったことはなんですか。

一時、住宅の修理依頼がたくさんありました。いまだに修理の依頼があります。瓦はこの先5年先くらいまで修理待ちがあります。

■今地震への備えはしていますか

お客さんからの要望で、家具の固定してほしいという依頼があります。私は、高い所に置くものを低い所を置くように意識しています。また、非常食の準備はしようと思っています。

■避難されている方との交流はありますか

定期的に浪江から避難されてきている方にFMモットコムに出演していただいています。インターネットラジオで聞くこともできるので、遠くの方でもぜひ聞いてほしいと思います。



伊藤 幸夫 さん (本宮)